

グループホーム 片町苑					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、職員全体で具現化に努めている。また、理念は各フロアに掲示し、研修係を通じて全職員で共有し、来訪者にも認知していただいている。	各フロア入口に理念6項目が掲示されており、来訪者の目にもよく留まる。職員全員で認識・共有し、理念の実践に向けた取り組みが行われている。	今後も理念の項目が日常生活において具体的な取り組みで実践され、個々の介護計画にも反映されるよう期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶は勿論、自治会の催し(地車、盆踊り、地藏盆、)や、ご葬儀、総会、慰安旅行等に参加させて頂き、1年を通してお付き合いを頂いている。また、運営推進会議にも毎回ご参加して頂いている。	自治会に加入しており、地域行事への参加、またそれらの準備等には職員も参加しており、相互の付き合いが出来ている。近所の公園へは普段の散歩で利用しており、幼稚園児との交流もある。	町会長・副会長には運営推進会議にも出席頂いており、地域との協力関係が伺える。今後も、認知症の理解を深める発信拠点として地域との繋がりを更に広めていって頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会役員が地域防災に対し熱心であり、大規模災害などを想定して、医療法人の立場から様々な方面で地域と連携が取れることを話し合っている。また、地域の方より高齢者についての日常的な相談や施設利用のアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の割合で定期開催し、自治会を始め、地域包括、ご利用者、利用者のご家族等に日々の苑での生活や行事、利用者の動静、地域の行事など報告を行っている。この事によりご利用者と地域の繋がりが出来、行事の場面等で良い関係となり利用者や地域とのつながりとなり、暮らし続けられる環境や体制が整っている。	2か月に1度、家族・町会長・副会長・地域包括支援センター職員の出席で開催されている。サービスの報告、行事・入退去・入院報告、自治会及び包括からの連絡事項、意見・要望等の議題である。ホームとしてはより多くの家族の出席を願っている。	多くの家族の出席を得られるよう、議題内容の工夫や家族間の交流について、今後の課題としたい。時には、家族が出席し易い日時に開催する事も考えてみたい。民生委員や婦人会などへの声かけで、地域の出席者を増やしたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	不明な部分などは市や区などに電話や訪問し、連絡を密にとり、最新情報や必要に応じ助言・指導を賜ることで、ご利用者様へのよりきめ細やかな支援に努めている。	市・区とは日頃から電話や訪問で密な関係にあり、相談や助言を頂ける体制がとれている。市からは、大規模災害時における受け入れについて打診があった。	今後もホームの実情を伝えながら、市・区と協力関係を築いていかれたい。介護相談員の受け入れについても相談されると良いのでは、と提案する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	開所当初より身体拘束を行わない状況を保っており、事業所独自の方針、マニュアルを整備し、全ての職員へ研修等を通じ意識啓発を行っている。今後も、内外研修受講の機会を積極的に設けていくことで、職員への啓蒙活動を継続的に実施し、意識レベルの底上げを図っていききたい。	身体拘束をしないのが基本、という認識を持ち、研修や会議等を通して職員で共有し取り組んでいる。資料を職員で作成し、日々のケアの中で見つめ直しながら支援を行っている。	車椅子でのケアに努力や工夫をされている様子が伺えた。引き続き普通椅子への移乗支援に力を注がれたい。職員全員で意識を高めながら、今後も身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいかれたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修等を通じて、職員間で学習を行い、意識統一を行っている。また、EV内や入口に行政機関からの配布物などを掲示し啓蒙活動を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に研修担当者を定め、様々な方面から職員教育に取り組むほか、施設長、ケアマネジャーが社会福祉協議会主催の実践者研修などを受講したり、一部ではあるが職員は外部研修で学ぶ機会を持っており、状況に応じそれらをご利用者様の支援に活かすことができる。また、職員同士のディスカッションも日常的に行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、利用約款を用い口頭で詳細な説明を行い、契約者及び家族等が理解・納得をしやすいように対応している。また、解約の際も利用者や家族等の心身の状況、希望等を勧奨し、必要な援助を行っている。		

10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアマネジャを始め職員が日々家族等と意見交換を行い、ご意見・ご要望を収集し、運営に反映させるよう努めている。また、記入時直接見えにくい場所である各階EVホールに意見箱を設けることで、直接職員に口頭では言いづらいことを文書でお知らせいただける体制を整えている。</p>	<p>担当職員配置制を敷いており、来訪時には極力要望や意見等を聞くようにしている。家族からは投棄量についての要望が寄せられた事があった。「意見箱」を用紙と共に各フロア入口に設置している。</p>	<p>入居者・家族からの意見・要望・苦情等はホームの充実へと繋がる。運営に反映されるよう、今後も積極的に声をかけられたい。家族同士のつながりが深まるようホームとして手を差し伸べ、更に家族会へと発展させられる事を期待する。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎朝の朝礼時に日常の「気づき」を伝える時間を設け各職員から小さなことでも、気付いた部分などがあれば気軽に意見を発表出来るようにし反映させている。また、日常的なコミュニケーションは勿論のこと、全体会議、フロア会議、個人面談等の機会を設けている。</p>	<p>会議の前に意見や要望を無記名で主任に提出し、反映への糸口としている。備品購入の要望やシフト作成についての要望、支援内容に関しての意見や提案等が寄せられ、改善、反映に繋がられている。</p>	<p>“気づき”は、意識を持つ事で得られる。今後も日頃の支援に意識を持ち、意見や提案を出し合う事で更なる充実に繋がっていかれたい。また、何でも言い合える職場環境を大切にされたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、日常的に全職員が向上心を持って働けているかの現状把握に努めている。また、必要に応じ個人面談などの機会を設け、職場環境や条件の整備を検討している。</p>	/	/
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職員に対して3期間の行程で基本から応用までレベルを配慮し、担当職員が育成指導を行っている。また、全職員には研修担当者が日々の業務で必要と思われる内容を中心として毎月内部研修を行っている。</p>	/	/
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域包括主催で同業者とのネットワークの構築が図られており、職員を派遣し更なるサービス向上を予定している。また、全国認知症グループホーム協会のホームページなどから情報収集し、サービスの質の向上に繋げている。</p>	/	/

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>安心感に繋がる関係が初期の段階で築けるように、お問合せや見学時から、受容・傾聴・共感の姿勢で対応している。また、ご利用者やご家族様が抱えておられる不安を一つでも多く話し、打開策の提案など安心してご入居頂けるように対応している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>上記同様に、お問合せやご見学時から、受容・傾聴の姿勢を保ち、ご家族様が抱えていらっしゃる不安や罪悪感をひとつでも多く拝聴し、打開策などを模索し対応のご提案を行っている。ご本人の安心を確保するためにも、ご家族に安心していただける関係が初期の段階で築けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>医師への相談を始め、状況に応じて法人全体で対応できるような体制を整え、検討している。また、適切なサービスの紹介や申込の支援などもしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>身体や認知症の状況に合わせ、日々の体操を始め、生け花や洗濯たみ、カルタなどのレクリエーションを行っている。これらを通して共に楽しい時間を共有しながらホームで生活する一員としての関係づくりに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族等来苑時は勿論のこと、電話や定期的にお手紙など、ご利用者様の状態を伝える等、積極的に情報交換することで、共にご本人を支えていく関係を築いている。また、行事などへの参加を頂き家族として介護に参加して頂いたり、外出や外泊をしていただけるように努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域の買い物や公園、自治会行事等への参加を行うほか、入所後も多くの面会の方が来て頂いている状況である。施設入所が理由で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、面会や外出のご希望には極力お応えできるよう支援している。</p>	<p>毎年の「都島神社」への初詣や、普段は近くの公園への散歩など、馴染みの場所を大切にしている。馴染みの人間関係をつなぐ為に、暑中見舞いや年賀状、手紙などを送る支援も行っている。茶道の経験者には、行事の折に抹茶を点でて振る舞って頂いている。</p>	<p>初詣に都島神社に詣でた折には、“懐かしいなあ”と喜んでくれたとの事。今後も、一つでも多くその様な声が聞かれる様に、懐かしの場所への訪問をしてあげて欲しい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々のレクリエーションを通しての関係づくりは勿論、リビング等でTVを見ている時や食後の壇らの時に職員が会話を広げたり、間に入る等して、日常的に利用者同士の関係を把握し、利用者同士の関係が心地よくなるよう支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院先などへ定期的に訪問、面会に行くなどの支援を行っているほか、退院後希望される方には再度当苑へ帰ってきていただけるよう対応などの支援を行っている。また、サービス終了時にはいつでも立ち寄りいただけるようご本人やご家族に声をかけている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、ご本人の表情や行動を観察し、想いを汲み取るよう努めている。本人の想いに沿った対応ができるようご家族から情報を得たり、担当職員などで頻回にカンファレンスなどを開催し支援している。	入社後の研修を含め、対応について学んでいる。職員は日々のちょっとした変化も見落とす事無く対応できている。	担当制を有効に活用しながら、日々の変化を見逃す事無く今後も一人ひとりの思いや意向を掴む努力をしていって欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	特に入所当初からご本人やご家族からのお話を傾聴し、生活歴の把握に努めている。入所後は、個人のケースファイルにご意向を含めた情報やケアプランを通じた経過観察などを記録し、全ての職員が共通の情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケースファイル記録や職員間のコミュニケーションによる情報交換を通じ、一人ひとりの暮らしの現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、計画作成担当者、職員、主治医、担当看護師などが、それぞれ意見を出し合い、その要望・意見やアイデアを反映した介護計画をケアマネジャーが総合的に作成している。	家族から意見や要望等を引き出す努力をし、介護計画に活かす様になっている。関係者それぞれの意見を出し合い、共有して支援に結び付けている。	今後も入居者それぞれに即した具体的な目標や好きな事楽しんでいる事などを盛り込んだ介護計画で、張り合いのある楽しい毎日を送って頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などに関しては詳細に日誌やカルテ、ケアカンファレンス等で情報共有しており、職員によって提供するサービスのバラツキのない様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「医療連携」や「個別ケアサービス」などご本人やご家族の状況に応じて柔軟なサービスを提供できるよう支援し法人内の持っている能力で対応できる事柄については積極的な姿勢で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園と隣接する公園などへの散歩時、園児との交流や、地域自治会役員の皆さんと日ごろから連絡を頂き、地域の地車、盆踊り、地蔵盆や婦人会が開所されている「ふれあい喫茶」などへお誘いを頂いたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医療機関が同法人の救急指定病院といくこともあり、入所時にかかりつけ医を同法人の病院に変更を希望されるケースが大半を占めている。かかりつけ医と事業所の間には盤石な連携体制があり、24時間いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。	大多数が、救急指定病院である運営法人の明生病院がかかりつけ医となっている。従来のかかりつけ医を継続されている入居者もいる。透析患者もホームの送迎で通院支援している。必要な人には訪問歯科による診療を受診できる。その人にとっての最善な医療体制がある。	ホーム長は常日頃から“早期発見、早期対応を心掛けるように”と指導しており、かかりつけ医、訪問看護師、薬局並びにホームとの連携は家族にとって安心な体制と言える。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎週協力医療機関より看護師が訪問し、日々の健康状態を記録や職員の報告から判断し、適宜処置や受診につなげている。また、担当看護師が外来患者担当の為、苑で得た各利用者の情報を協力医療機関の受診時にいかされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先がほぼ同法人内の病院の為、常勤医や各階詰所の師長などが、苑職員と日頃から会議や日常業務の中で連携を取り、情報交換を行っている。また、日頃から頻回にお見舞いや毎回詰所を訪問等の機会を設け、ご本人やご家族の不安解消を支援することに努めている。		

33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「延命に対する意思決定書」を用い、苑や法人の対応を詳細に説明し、入所後の対応についてご本人やご家族の明確な意思が確認できるようにしている。また、「延命に対する意思決定書」の見直しや変更など、個別面談時などの機会を通じ、都度相談に応じる体制は整えている。</p>	<p>入居契約時に「延命に対する意思決定書」を用い、本人また家族への十分な説明で方針を確認している。また同時に「重度化した場合における対応に係る指針」でもって、看取りに関する片町苑での方針を説明している。</p>	<p>過去、苑での看取りの経験は無い。将来に向け、看取りに対しての取り組みや考え方等職員間で話し合いを持たれることに期待する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>協力医療機関が救急病院の為、常時救急対応が可能なベッドの確保がされている。また、苑内で緊急事態の連絡や対処方法などを取り決めている。また、内外研修を通じ学ぶ機会を設けている。AEDを配置し対応している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防機関に参加していただき避難訓練(内1回は夜間の避難)を実施しており、消防機関からの助言に基づき周知徹底している。また、自治会を通じ取得した地域の災害対策情報や非常口・避難経路・避難方法等を職員に定期的に周知することで、不測の事態に備えている。</p>	<p>消防との協働で、夜間2階台所よりの出火を想定し、通報訓練、初期消火、避難誘導を行った。大規模災害に備え、線路の確認やハザードマップを確認をしている。自治会からも災害状態においてどう避難するかの情報も得ている。</p>	<p>地震等不測の事態に慌てる事が無いよう、全職員が意識を高め、常日頃からの訓練を大事にされた。災害備蓄品は法人で確保との事であるが、必需品を吟味し、ホームでの備えとして検討された。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての職員が、日々カンファレンス等を通じて人格の尊重やプライバシーの確保に関して理解を深める機会を持ち、実践している。認知症の比較的軽度の御利用者様には季節などに合わせ適宜、居室担当職員が個別外出などを行いパーソナルな時間を設けている。	毎月行われている研修の中で人権やプライバシーについても学び、職員全員で理解を深めている。排泄支援における声かけに特に気を付けている。	研修で学んだ事が実践出来ているか、入室時での声かけ等を含め日頃の支援を振り返ってみる事も大事である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容・傾聴・共感の姿勢を心掛け、ご本人の意向を伝え易い雰囲気作りに努めている。また自己決定できるような積極的な働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	適宜カンファレンス等で日々の認知症状や生活状態を把握し、ご本人の希望やその日の体調を考慮し、散歩やレクリエーション、家事手伝いなど、一人ひとりが楽しく穏やかに過ごすことができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じ衣替えを行い、極力御本人が選んだ衣服を着ていただいている。また、希望者には希望の理美容店に通えるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のメニューは栄養士管理の下、様々な工夫や季節感のあるものとなっている。また、おやつ等は気軽に季節感を出せるものの為工夫されている。また、毎月行事の時等に、特別料理を準備しフルコース形式やバイキング形式、焼き立て、出来立てなどを提供している。	昼食は系列施設より届けられ、キザミやトロミ等の介護食形態も対応して届く。日曜日は3食とも業者の物を利用している。手作りのおやつレクリエーションも好評である。食事作りに手が空く時間を、支援に回している。下膳をする入居者の姿があった。	業者の提供する食事は充実しており、特に行事食は大変好評との事である。誕生日の個別外食などを含め、今後も食事が楽しみとなるよう継続されたい。“しっかりと噛んで美味しく頂く”為の準備として、嚥下体操を食事の前にされることを提案する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や、集会に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は利用者様ごとに記録し、医師や看護師などと状況を把握しながら、栄養補助剤やアルカリオン飲料水などで不足分を補うなどの支援を行っている。また栄養バランスに関しては、法人の管理栄養士の助言を得ながら調整している。透析患者様には個別対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は訪問歯科診療や受診を行い、毎食後、口腔ケアを実施し、ご自身でケアできない場合や、磨き残しの支援など一人ひとりの状態に合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、適宜職員から声かけや誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援し、本人が不快とならないよう支援をしている。また、便秘薬などの利用も訪問Nsの指示のもと調節も行っている。	トイレでの排泄を基本とし、声かけや誘導に気を配りながら支援している。「排泄チェック表」の活用で健康状態の把握へも繋げている。	今後もトイレでの排泄に取り組み、また自立に向けた支援に取り組みんでいかれたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々積極的な水分補給に努め、排便状況や下剤服用の把握、献立の工夫、散歩や体操で身体を動かすなどで働きかけを行ったり、腹部マッサージを適宜行うなどの支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思確認を行い、ご利用者様と職員が1対1でゆっくりコミュニケーションをとりながら楽しく入浴していただけるよう支援している。また、年に数回行事入浴(菖蒲湯・バラ湯)なども行っている。	同性介助を基本とし、週に2回以上の入浴を支援している。重度の入居者については一階デイサービスの機械浴の利用も出来る。浴槽の湯換え、洗浄もその都度行われていて清潔さは維持されている。シャワーチェアをこの度新しく購入した。	入浴拒否が強い入居者には、朝から状況を積み上げ、夕方にスムーズに入って頂く為の苦勞を厭わない職員の努力がある。入居者の身体の状態や変化が観察できる貴重な時間でもある。コミュニケーションを図りながら楽しい入浴を継続されたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が、個々の生活習慣を把握し、日中のレクリエーションや声かけを行うことで、利用者一人ひとりの生活リズムを整え、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。また、適宜Drより促眠剤なども利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が服用している薬情報ファイルを作成し、職員全員で情報共有しており、症状などを個別に担当者を決め「個別ファイルでの準備」「服薬介助」、表によるチェックを行いダブルチェックにて管理している。		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援を</p>	<p>日々の体操やカラオケを始めとするレクリエーションのほか、後片付けや洗濯物整理などの役割を持って頂くことで、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>夏の暑い日や、冬の寒い日はドライブを行い、その他気候の良い時等は買い物・散歩などを通じ、生活リハビリ・日光浴・外気浴等を頻回に行っている。また、誕生会や季節行事など出来るだけ季節や環境を感じられるよう外出行事を行っている。</p>	<p>その日の気温や天候によって散歩や買い物、あるいはドライブに出掛けたりしている。気候の良い時は、近くの公園への散歩を心掛けている。誕生日の個別外食や車での外出行事といった非日常的なイベント外出も大きな楽しみとなっている。</p>	<p>外出は外部の人達と接するよき機会である。日頃の散歩外出を心掛け、日光を浴び五感を得ると同時に足腰の鍛錬ともなる機会をなるべく多く提供されている。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な限り本人にお金を持っていただけるよう支援することで精神的な安定を図り、利用者の力やご希望に応じた支援を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族にご本人より季節の手紙を書いて頂いたり、利用者によっては携帯を所持されており、ご家族などに電話されている。また、携帯がない利用者に対しては、ご家族に確認の上、ホームの電話でお話していただいている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食事や「くつろぎ」の時間などリビングにてご利用様が若いころの唱歌などのCDや時代劇や歌謡ショーなどのDVDを中心に流し、ご利用者様同士のコミュニケーションのきっかけとしている。また、利用者ご自身がレク等で作成した作品や、毎月の行事に合わせ担当者が掲示物をご利用者様と作成し掲示している。</p>	<p>フロアの壁には行事や外出先で撮った入居者の顔写真が沢山貼られている。また職員と共同で制作した季節の作品や、個人作品が貼られ目を引く。独りになれる居場所もあり、居心地良く過ごせる共用空間作りが出来ている。クリーンスタッフが普段の掃除を担当している。</p>	<p>ゆったりスペースのリビングは、テーブルやソファが置ける十分なスペースがあり、生活感も感じられる。当日は、春の作品作りにはさみを使い手を動かす入居者の姿があった。壁絵の完成が楽しみである。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>其々に決められた席があり、リビングは、ダイニングテーブルと椅子、ソファを配置し、入居者同士で談笑したり、TV観賞するなど、入居者のくつろぎの場となっている。また、ペランダやEV前にソファを配置し、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはご家族などに依頼し、以前から使い慣れたなじみのものや本人のお気に入りのものを出来るだけ持ち込んでいただいている。また、家具の配置等に配慮し、本人が居心地良く安全に過ごせるよう工夫している。また、ご本人の写る写真などは積極的に居室に掲示し、良い思い出の補完に努めている。</p>	<p>居室には馴染みの物が持ち込まれ、その人その人の部屋作りが出来ている。入居者によっては離床時の安全に対する配慮もなされている。</p>	<p>仏壇の置かれた部屋もあり、本人の環境に副った部屋作りが支援されている。寝具を含め清潔で居心地良い居室となるよう、今後も気を配られたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は全面バリアフリーであり、車いす、歩行器等の通行に支障のない幅員を確保し、滑りにくい塩化ビニールにて転倒の未然防止にも配慮している。なお、厨房は入居者とスタッフが協働できるスペースとレイアウトになっている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○ 	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ 	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ 	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない